

令和元年度 第2回 学校評議員会議事録

日 時 令和元年11月8日（金）16:00～

場 所 本校小会議室

参加者 評議員 正 木 啓 子 様 （山角会富士吉田診療所心理室カウンセラー）
鶴 田 清 司 様 （都留文科大学教養学部学校教育学科教授）
栗 井 晶 子 様 （公益財団法人栗井英朗環境財団法人 代表理事）

職 員 校長・事務長・第二教頭・総務部職員（記録）

生徒代表 生徒会新役員3名

各学年代表3名

1 校長挨拶

2 自己紹介

3 生徒との懇談

司会 : 生徒会副会長

評議員：吉高GPについて、集会では具体的にどのようなことが話し合われるのか。

生 徒：1年生はまだ受け身で義務のように感じている部分もある。

2年生は自分が目標を達成するための目標としている。

3年生じっくりGPが身につくように後輩に伝えようとしている。

評議員：概ね生徒はプラスのものとしてGPをとらえているのか。

生 徒：1、2年の時はまだGPのよさがそこまでわからなかったが、3年になって行事以外にも受験をひかえた学習面でも、GPがとても身近に感じて良さがわかった。

評議員：自分が高校の頃はあまり人間力を高めるといようなことはなかった。GPは生徒の皆さんがこれからの社会を生き抜くための大人からのメッセージのように思う。

評議員：具体的に受験生になって、どういうところでGPのよさを実感したか。

生 徒：勉強の計画をたてるのにも、自分で無意識のうちにGPが生きていて、自然に判断力や思考力が身についてきている感じがする。

評議員：3年生の中で具体的に変わったことが1・2年生にも伝わると、もっとGPが浸透していくのではないかと思う。

評議員：自分は、高校の時、最初は学校の個性になじめなかったが、3年生頃になると、また卒業すると、その学校の個性が心の支えになった。GPも生徒の皆さんにとってきっと誇りに思えると思う。

評議員：高校時代自分は部活を途中でやめてしまったことが悔やまれる。今どのように両立させているか。

生 徒：理数科で放課後の課外もあり、部活動において、練習の曜日を決めて練習できるよう配慮してもらっている。勉強のことも心配せずに参加できる。学校の中で学習できる場所がたくさんあって恵まれている。友人とも自分の将来のことを話したり、お互いに刺激し合ったりしている。

評議員：生徒総会の学校への生徒の要望は、具体的にどのようなものか。

生 徒：ポロシャツをつくってほしいという要望がある。

評議員：それは可能なのか。

校 長：学校としては可能。生徒総会がそれを実現させるための場であるが、説得できるだけ

の理由や根拠が必要である。まだ、その理由や根拠が弱い。

評議員：何事にも、要望するにはやはり裏付けが必要である。

生徒：今、全校の生徒がポロシャツについてどれだけ要望しているかを調査するなど、要望する準備を進めている。

評議員：根拠となる資料やデータは将来どんな仕事についても必要なもので、頑張ってもらいたい。

評議員：最近の愛着度ランキングで山梨は最下位とのこと。皆さんは地元に対してどういう思いがあるか。

生徒：都会にあこがれる気持ちもあるが、地元の水のおいしさや近所の方の温かさが感じられて地元へ愛着がある。

生徒：外国人も多いが、安全でいい所だと思う。

生徒：年配の方が多く、地域の温かさを痛感しているので、将来は地元へ貢献したい。

評議員：山梨は、子どもの地域行事に参加する率が高いのにどうして愛着度が低いのか不思議だ。

評議員：山梨は魅力的な所なので、故郷への思いは持ち続けてほしい。

評議員：吉田高校の学園祭の様子はすばらしいと思った。特にミュージカルなど。応援している。

評議員：勉強以外の部分の様々な活動がすばらしい。

評議員：将来の夢をそれぞれきかせてほしい。

生徒：地域の人たちと一体となって働ける仕事につきたい。

生徒：共遊玩具を開発したい。バリアフリーやノーマライゼーションに関心がある。

生徒：医療機器を開発してたくさんの人を救いたい。

生徒：IT 関連の開発、世界とつながる仕事に就きたい。

生徒：まだ決まっていない。いまから見つけたい。

生徒：人の考えを生かす、社会に貢献することに興味がある。

(本日の感想)

評議員：いつもはカウンセリングの立場で吉田高校へ来るが、今日はトータルな視点で吉田高校を知ることができた。

評議員：生徒の皆さんの受け答えがしっかりしていて驚いた。ますます頑張ってもらいたい。

評議員：生徒の皆さんの話をきいて、ますます地域へ貢献したいと思った。

生徒：人それぞれの意見に耳を傾けながら生徒会を運営していきたいと思う。

生徒：評議員の方からいただいたアドバイスを参考にしていきたい。

生徒：意見を聞いて、評議員の方々が吉田高校のことを考えてくれていることがわかり、ますます努力していきたいと思う。

生徒：改めて吉田高校の良さ、環境の良さがわかった。

生徒：全体の意見のなかの意見と一人一人の意見を聞けるいい機会であった。また、評議員のみなさんに考えていただいていることがありがたいと思った。

生徒：自己肯定力をたかめられるように自分たちなりに頑張っていきたい。

3 学校教職員との意見交換

校長：コミュニティスクールへの申請についてご理解とご協力をお願いしたい。

評議員：今日はすばらしい生徒ばかりだったが、学校になじめない、つまづいている生徒はいるのか。

校長：各学年とも数人はいる。

評議員：もともとの生徒の特性からの部分が多い。また、進学校での自分の居場所がないという生徒もいる。

校長：そのための GP でもある。

評議員：自分の好きなことが見いだせると強い。

評議員：夢や目標を持つことは、気持ちがポジティブになることは大事だと痛感する。

評議員：勉強も、また勉強以外にも何か打ち込めるものがあるといいと思う。

校 長：そういう生徒を育てたいと思っている。

4 連絡事項

(次回の日程説明)

終了